

# 令和5年度 五所川原市民討議会



令和5年度五所川原市民討議会実行委員会

# 目次

市民討議会の概要.....	2
事業概要 .....	2
タイムスケジュール .....	3
市民討議会の目的・手法 .....	4
地域社会の課題.....	4
今回の市民討議会の目的 .....	4
市民討議会の手法 .....	5
話し合いのルール .....	6
討論の進め方と論点（ねらい） .....	7
メインテーマ .....	7
テーマ1 .....	7
テーマ2 .....	8
テーマ3 .....	8
討議結果（コミュニティの発案） .....	9
「子どもたちとシニア世代の交流コミュニティ」 .....	9
「西北五スクールブリッジ」 .....	10
「ミーティングスクール ～皆は一人のために一人は皆のために～」 .....	11
「アキヤランド」 .....	12
「TSUNAGU」 .....	13
「異世代マッチング」 .....	14
市民討議会資料等.....	15
参加者案内通知.....	15
討議に参加いただいた方のアンケート結果.....	17
討議に参加いただけなかった方のアンケート結果 .....	24

# 市民討議会の概要

---

## 事業概要

- 事業名 令和5年度 五所川原市民討議会
- 運営形態 実行委員会（五所川原市・(公社)五所川原青年会議所が共催）
- 開催日時 令和5年5月28日（日） 13：00
- 開催場所 五所川原市民学習情報センター
- 参加者選出 住民基本台帳から無作為に抽出した1,200名の市民へ参加案内を送付し、応募者から抽選で30名を参加者に決定。
- 討議テーマ コミュニケーション、足りていますか？  
～地域共生社会の実現に向けて～  
STEP1「コミュニティの具体像を整理しよう」  
STEP2「チームが最も共感できるコミュニティを選ぼう」  
STEP3「地域に必要なコミュニティ像を紙に書き出そう」
- 情報提供 討議前に弘前大学大学院地域社会研究科の平井太郎教授より地域住民が主体となって運営しているコミュニティの紹介をいただきました。  
また、五所川原市より現在活動中の地域コミュニティを紹介いただきました。
- 討議進行 少人数のワークショップ形式によるグループ討議
  - ① 参加者を、討議グループ（1グループ約5人、計6グループ）に分け、進行は実行委員会のファシリテーターが務めました。
  - ② 討議グループごとに小テーマに関するグループディスカッションを行い、グループとしての意見を集約しました。
  - ③ 最後に、グループで集約した意見を発表しました。
- 実施報告 討議結果は、報告書にまとめ、提言として市に提出します。

## タイムスケジュール

TIME	内容
13:00～	受付開始
13:30～	開会
13:31～	五所川原青年会議所 理事長挨拶
13:33～	コーディネーター紹介
13:35～	メインテーマ説明
13:45～	平井先生による講話
14:15～	市職員より、五所川原市の取組み状況等を紹介
14:20～	(休憩)
14:35～	討議進行について
14:45～	自己紹介&プロフィールシート発表
14:55～	STEP1 コミュニティの具体像を整理しよう
15:35～	STEP2 チームが最も共感できるコミュニティを選ぼう
16:05～	STEP3 地域に必要なコミュニティ像を紙に書き出そう
16:25～	(休憩)
16:35～	グループ発表
17:05～	平井先生による総評
17:10～	閉会
17:15～	記念撮影
閉会后	参加者アンケート記入 随時解散

## 市民討議会の目的・手法

---

### 地域社会の課題

かつては、地域の相互の扶助や家族・親戚同士の助け合いなど、地域・家庭・職場といった人々の生活の様々な場面において、支え合いの機能が存在していました。時代の変化に伴い、公的支援制度の整備や拡充が図れてきましたが、人口減少に伴い地域・家庭・職場という人々の生活領域における支え合いの基盤が脆弱になりつつあります。

そういった状況の中、地域社会を持続させていくためには、社会構造の変化や人々の暮らしの変化を踏まえ、制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく地域共生社会を目指す必要があります。

(参考：厚生労働省 HP より、「地域共生社会」の実現に向けて)

### 今回の市民討議会の目的

地域社会が人口減少の一途を辿る一方で、地域住民の行政に対するニーズは増加し、それに合わせた行政サービスの展開・拡充が難しくなっています。

今後、地域共生社会という社会の在り方が必要になることを踏まえ、まずは人と人とがコミュニティという人の集まりを通して繋がっていく必要があると考えました。

沢山の人が様々なコミュニティに関わることにより、地域住民が世代や背景を超えて繋がり、地域住民による課題共有や提言、延いては地域住民同士の相互扶助が発生し、地域住民が主体となってまちづくりを行うようになる狙いが込められています(地域住民の社会参画意識の向上)。

## 市民討議会の手法

五所川原市民討議会は、ドイツの市民参加手法である「プラーヌクスツェレ（注）」を参考に、独自の地域に見合った形に再構成し、実施するにあたりいくつかの工夫を行いました。

### ① 運営組織＝実行委員会形式

五所川原市と公益社団法人五所川原青年会議所の共催事業として開催し、開催準備から当日の運営を両者からなる実行委員会が担当しました。

実行委員会では、背景・目的・課題設定をベースに討議会当日を想定したシミュレーションを幾度となく重ね、ファシリテーターが公平性を保ちながらも議論を前向きに進められるための訓練を入念に行いました。

### ② 住民基本台帳による完全無作為抽出

市民討議会への参加の呼びかけは、18歳以上の市民を対象に住民基本台帳から無作為抽出を行い、1,200名に参加依頼書を送付しました。一定地域に偏らないよう旧市町村単位の人口比率を加味したことで、より地域の構成要素に沿った抽出となりました。締め切り日までに送られてきた参加承諾書は、35名でした。なお、個人情報保護の観点から抽出は五所川原市が、発送・集計作業は五所川原青年会議所が担当しました。

### ③ 話し合いの方法

話し合いは、プラーヌクスツェレとほぼ同様の手法で行いました。

その特徴の1点目は、1グループ約5人単位で全6グループが同時に話し合いを進めたことです。少人数での話し合いでは、グループ内すべての人が発言する機会があります。

2点目は、各グループにより発表が行われ、全体の意見の傾向を見ることと、参加者全体の意見の共有に努めたことです。

(注)：プランクスツェレとは・・・

プランクスツェレ（独：Planungszelle：計画細胞）は、ペーター・C・ディーネル（ドイツ・ヴバタール大学名誉教授）により1970年代に考案された市民参加の手法です。

ドイツでは、1990年のドイツ統一後、地方公共団体において住民投票制度が導入されていったことに伴い、直接民主主義に対する認識が高まりました。このような潮流の中で、市民参加の手法の1つとしてプランクスツェレが注目されました。現在はスペインやオランダなどでも取組がなされています。他の市民参加の手法に比べてコストがかかる点と開催の準備や最終報告に時間がかかる点に問題があるものの、サイレントマジョリティと呼ばれる一般の市民の声なき声を抽出する方法としてきわめて有効であると評価されています。

★定義 『プランクスツェレは、無作為抽出で選ばれ、限られた期間、有償で、日々の労働から解放され、進行役のアシストを受けつつ、事前に与えられた解決可能な計画に関する課題に取り組む市民グループである』 ～「プランクスツェレ（ディーネル教授 著）」より～

★主な特徴（ドイツ型）

- 1 話し合いへの参加者を無作為抽出で選ぶ。
- 2 参加者に謝礼を払う。
- 3 参加者だけで話し合いを行い、全体で投票を行う。
- 4 各話し合いの前に現状や課題などの情報提供を行う。
- 5 まとまった結果を市民答申として公表する。

## 話し合いのルール

- ① 自分だけ話さない。
- ② 頭から否定しない。質問として聞く。
- ③ 人の意見を最後まで聞く。
- ④ 楽しい雰囲気大切に。

## 討論の進め方と論点（ねらい）

---

### メインテーマ

「コミュニケーション、足りていますか？」  
～地域共生社会の実現に向けて～

#### ◇ねらい

地域共生社会のゴール像は以下のようなものと考えます。

- ・全ての地域の人々が各々の強みを発揮し、互いに支え合う社会
- ・子供からシニア、障害者に至るまで全ての人々が活躍し、  
負い目を感じることなく、自身に誇りを持てる地域住民のマインド

このような未来に進んでいくには、行政だけではなく地域住民が主体となって課題に向き合い、行政や様々な団体と協力関係を持ちながら取り組んでいかなければなりません。多くの人々が繋がり、事を成していくためにはコミュニケーションが何より重要です。

そのため、本討議では地域のニーズを地域住民主体で実現するために必要なコミュニティの形を考えることを目的としています。

### テーマ 1

「コミュニティの具体像を整理しよう」

所用時間：40分

#### ◇やること

- そのコミュニティが必要である「背景」
- そのコミュニティを構成する「人の属性」（年齢、カテゴリ、etc）
- そのコミュニティの主な活動概要（場所、活動内容、etc）
- そのコミュニティが活動することによる 地域または地域の人への効果

#### ◇ねらい

個々人が思う地域の課題解決の一助となる地域コミュニティを発表し、背景・人・活動内容・効果をチームディスカッションにより整理・深掘りし、課題やコミュニティイメージの共有を図る。



## テーマ2

「チームが最も共感できるコミュニティを選ぼう」

所用時間：30分

### ◇やること

最後に発表するコミュニティの形を一つ選ぶ。

選んだコミュニティに対して背景・目的・人・活動内容・効果を更に深掘り・発展させる。

選ばれなかったコミュニティの良いところも可能ならば取り入れる。

### ◇ねらい

話し合いによりチームとしての意思決定を行い、選択した案をさらに発展させる。

## テーマ3

「地域に必要なコミュニティ像を紙に書き出そう」

所用時間：20分

### ◇やること

話し合った内容を模造紙に清書する。

発表者を決める（全員で発表も可）。

## 討議結果（コミュニティの発案）

---

### 「子どもたちとシニア世代の交流コミュニティ」

コミュニティ名：子どもたちとシニア世代の交流コミュニティ

ファシリテーター：大澤慎司

#### 背景・動機：

増税・景気後退に伴う経済的要因により結婚や出産を諦める世帯が増え、少子高齢化に歯止めがかからない。

一方で高齢者の健康寿命は延びているが、社会参画や地域貢献活動の機会が少ない。

子育て世代のニーズに対してシニアのリソースを活用できないか。

#### コミュニティ内容：

シニア世代が地域の空き施設や空き家で託児・学童を運営する。

昔の話や生活の知恵袋、地域の食育などシニアのノウハウを活用する。

#### 効果：

託児・学童環境が町域で充実していることによる転入効果

過疎化に向かう町域の活性化

文化の継承

コミュニケーション増加に伴う世代間のギャップ解消



## 「西北五スクールブリッジ」

コミュニティ名：西北五スクールブリッジ

ファシリテーター：佐々木康幸

### 背景・動機：

教員のみだけでは十分な教育の機会を確保することが難しい。

幼保・学校教育以外でも様々な体験を得ることが教育には不可欠。

子供の外遊びが減っていることなども懸念。

### コミュニティ内容：

学校の空き教室を利用し、様々な教育・体験機会を提供する。

- ・地域で働く人（職人や農家、猟師）による職業講話や職業体験
- ・シニア世代のノウハウを活用した体験（食育や生活の知恵袋）
- ・地域団体の活動に学校等の隔たりなく児童らを積極参加

### 効果：

子どもたちへ様々な体験機会を提供し、感性豊かに健やかに成長する。

引退したシニア世代の生き甲斐の創出に繋がる。

ジュニア・シニア世代を中心とした地域活性がまち全体の活性化に繋がる。



## 「ミーティングスクール ～皆は一人のために一人は皆のために～」

コミュニティ名：

ミーティングスクール ～皆は一人のために一人は皆のために～

ファシリテーター：高橋溪太

背景・動機：

学校に行きたいけど行けない子ども、登校拒否の子どもたちがいる中で、教員や職員の力だけでは十分な教育の機会を確保することが難しい。どのような子どもも等しく教育を受ける権利があり、子どもが社会に触れあう機会提供をしていく必要がある。

コミュニティ内容：

不遇な家庭の子どもが健やかに生活できるように以下の活動および体験機会を提供する。

- ・市の相談センターの活用促進
- ・ワークショップや職場体験の企画
- ・シニア世代との交流

効 果：

子どもたちが社会（学校）に復帰するためのきっかけづくりになる。  
子どもたちの新たな居場所の創出。  
世代間交流による地域活性化、高齢者の生き甲斐創出に繋がる。



## 「アキヤランド」

コミュニティ名：アキヤランド

ファシリテーター：石田潤

背景・動機：

物価が高く、生活するだけでも精一杯な中で人口減少が進み空き家が増えて  
いる。空き家は劣化しやすく解体にも費用がかかるため、空き家の有効活用方法  
を考えたい。

コミュニティ内容：

空き家を活用した地域コミュニティ。

- ・ 農家テーマパークの構築（宿泊、就業体験、農家のくらし体験など）
- ・ 釣り堀や民泊カフェなど遊び交流できる場所を作り・交流を行う
- ・ 様々な体験に託児・学童を組み合わせる

効 果：

U・Iターン者の増加

空き家の利活用促進

子どもたちへの地域教育促進





## 「TUNAGU」

コミュニティ名：TUNAGU

ファシリテーター：對馬幸征

### 背景・動機：

共働き世帯・シングル世帯の子育て事情が深刻である。  
フルタイムで働くことが難しい環境の中、子の将来のために仕事をしつつ、子どもには健やかに成長してもらいたい。

### コミュニティ内容：

託児・学童サービスにより共働き、シングル世帯の子育てを支援するコミュニティ。行政と連携して子育て世代のニーズを拾いあげ、他地域の事例を参考にしつつ、市政に反映するとともに寄付・補助により学童・託児環境を拡充していく。

### 効果：

生産活動の生産性向上による税収増加に加え、更なる子育て世代支援に対する財源となる。子育て世代にスコープしつつ、子育て世代を中心とした経済・福祉の充実を狙う。



## 「異世代マッチング」

コミュニティ名：異世代マッチング

ファシリテーター：小野顕成

背景・動機：

地域のイベントを知らずに気づいたら催事が過ぎてしまっていることが多い。  
各世代により情報伝達手段が異なることも要因にあり、もっと多くの人を繋げ情報を伝達・共有する手段はないか。

コミュニティ内容：

オンライン・オフラインに関わらず以下の機会提供により地域住民のコミュニケーションを増やしていく。

- ・地域の困り事を解消するボランティアマッチングコミュニティ
- ・孤立世帯、集落への寄り合い所提供など
- ・地域ローカルなオンラインコミュニティ（要ネットリテラシーの向上）

効 果：

全ての世代に対し第3の居場所創出となる

住民が主体となって地域の困り事を自発的に解決していく。

オンラインコミュニケーションの普及と地域のITリテラシーの向上



# 市民討議会資料等

---

## 参加者案内通知

令和5年4月吉日

市民の皆様へ

五所川原市長 佐々木 孝昌

公益社団法人 五所川原青年会議所  
理事長 對馬 幸征

### 令和5年度五所川原市民討議会への参加のお願い

拝啓 陽春の候 ますますご清栄のことと存じます。

この度、五所川原市と公益社団法人五所川原青年会議所は、「五所川原市民討議会」を協働で開催することといたしました。

市民討議会は、五所川原市をより良いまちにするため、さまざまな立場や年代の市民の皆様から、幅広い意見を出し合っていただき、市政への市民参加のきっかけづくりと、市民協働のまちづくりを推進していくものです。

この市民討議会への「参加のお願い」は、18歳以上のすべての市民の中から1,200名を無作為抽出し、送付させていただいています。

つきましては、貴方様が無作為抽出により選出されましたので、公私ともご多用の中、誠に恐縮ではありますが、趣旨をご理解の上、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。

敬白

### 記

- |          |   |
|----------|---|
| 1 日時     | 令和5年5月28日（日）13時30分～17時30分                 |
| 2 場所     | 五所川原市民学習情報センター 大教室<br>（住所：五所川原市字ーツ谷503-5） |
| 3 討議会テーマ | コミュニケーション、足りていますか？<br>～地域共生社会の実現に向けて～     |
| 4 謝礼     | 3,000円                                    |
| 5 参加定員   | 30名                                       |
| 6 進め方    | 参加者がいくつかのグループに分かれ、テーマに沿った意見を              |



出し合ってください、グループごとにまとめていただきます。

- 7 回答方法
- (1) ご参加いただける場合  
お手数ですが、別紙の承諾書に必要事項をご記入のうえ、同封の返信用封筒により、令和5年4月24日(月)までにご返送ください。
- (2) 不参加の場合  
お手数ですが、別紙アンケート用紙にご記入いただき、同封の返信用封筒により、令和5年4月24日(月)までにご返送ください。
- 8 参加者の決定
- 参加の申込みが多数となった場合は、大変申し訳ありませんが、抽選とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。
- 9 その他
- 託児サービスなど  
参加を承諾される方で、託児を希望する場合は、事前にご連絡ください(対象：1歳から未就学児まで)。
  - そのほか、ご不明な点がございましたら、下記事務局までお問い合わせください。

【問い合わせ先】

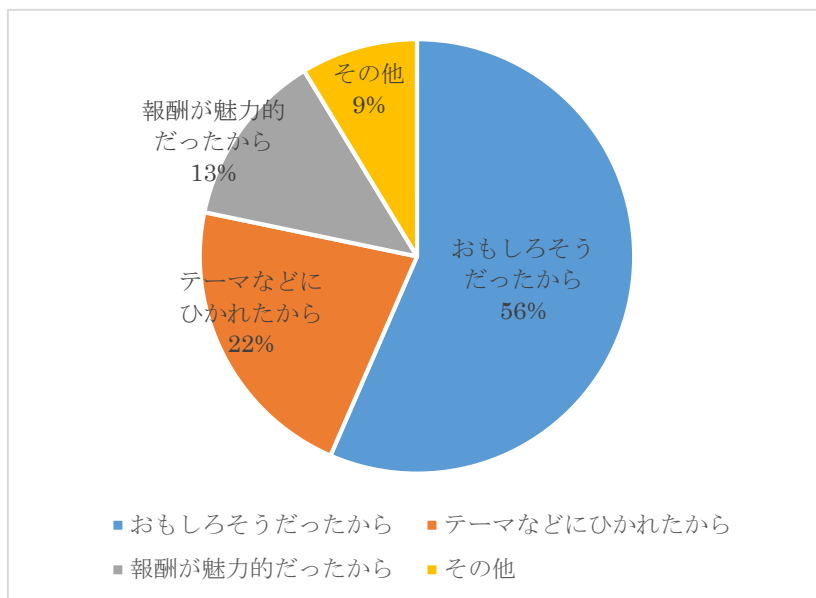
五所川原市民討議会実行委員会事務局  
(公益社団法人五所川原青年会議所内)  
〒037-0052 五所川原市字東町17-5 商工会館  
TEL：0173-35-4049  
(10:00~17:00 土日祝を除く)  
FAX：0173-35-4044

五所川原市財政部ふるさと未来戦略課  
〒037-8686 五所川原市字布屋町41番地1  
TEL：0173-35-2111 内線2233  
FAX：0173-35-3617

## 討議に参加いただいた方のアンケート結果

回答数：23

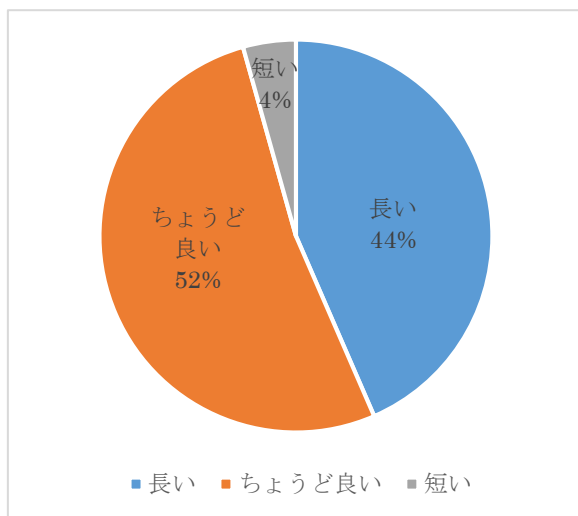
(質問 1) 本日、この市民討議会に参加された動機はなんですか？



その他の意見：

- ・選ばれたから
- ・どんな事をするのか興味があった

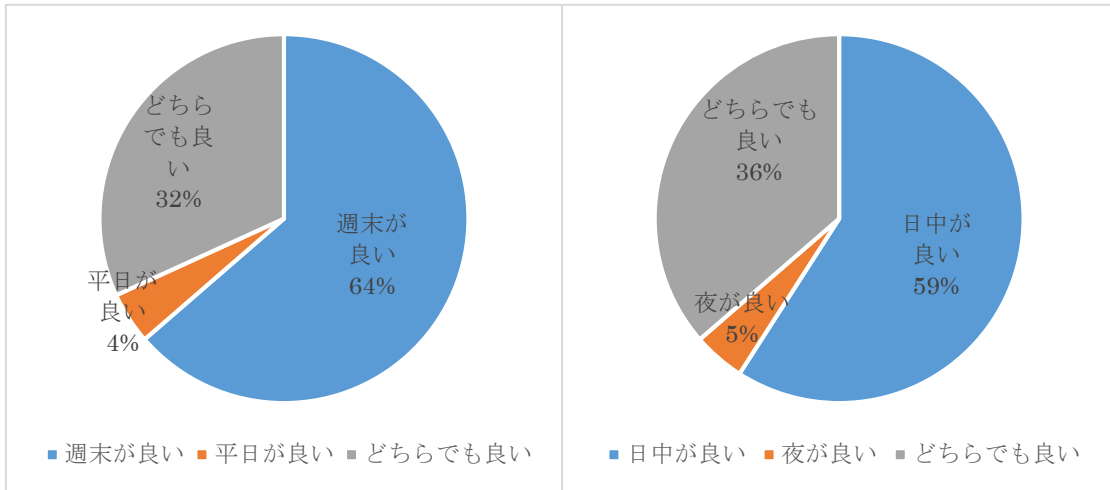
(質問 2) 市民討議会の時間的な長さはいかがでしたか？



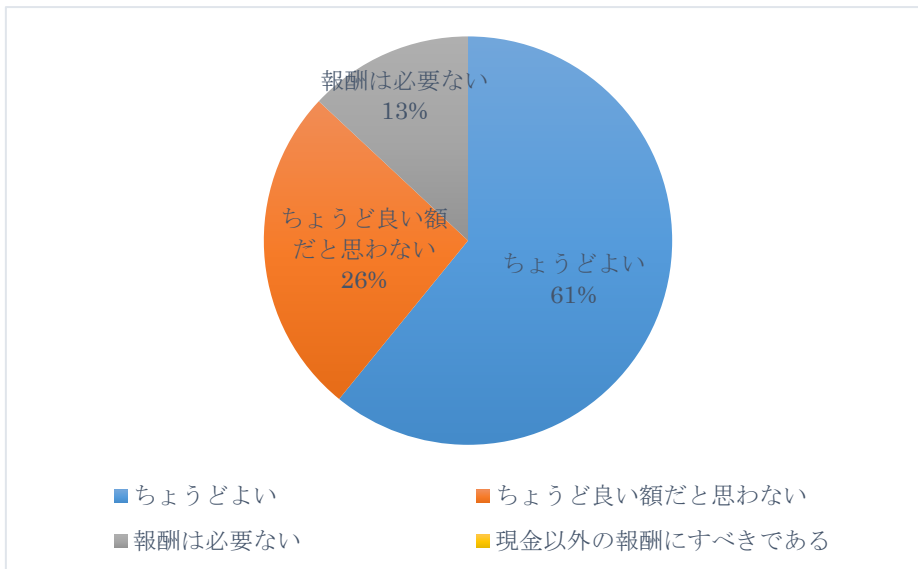
長いと答えた方のちょうどよい時間は平均 3 時間

短いと答えた方のちょうどよい時間は 7 時間

(質問 3) 市民討議会を開催する曜日と時間帯についてはいかがでしたか。

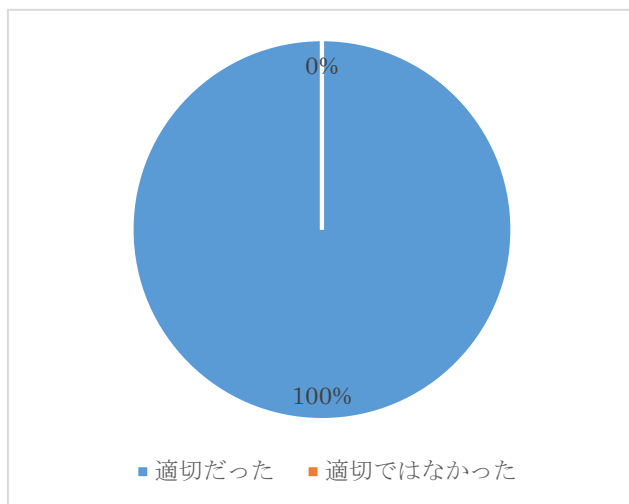


(質問 4) 市民討議会の報酬の額についてはいかがでしたか。

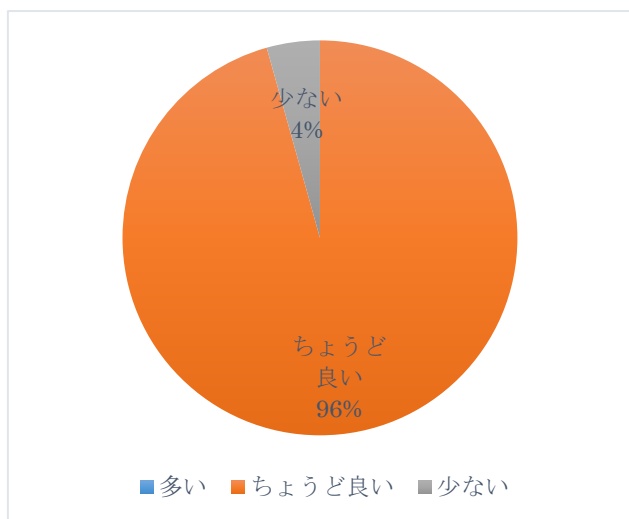


ちょうどよい額だと思わなかった方の適正金額  
1,000 円/時間、4,000 円、5,000 円

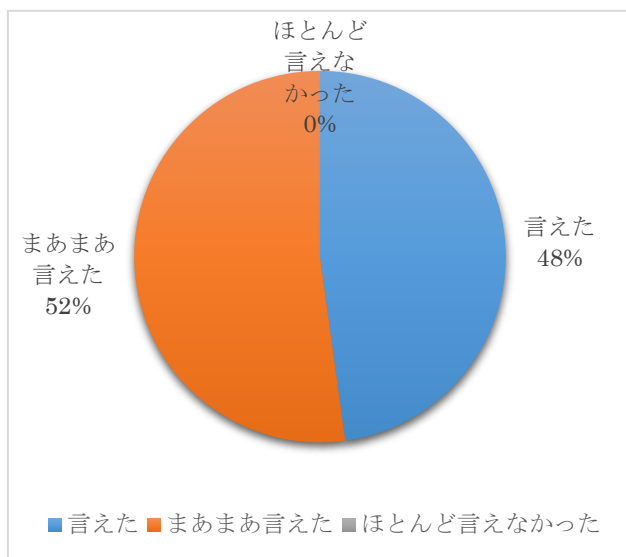
(質問 5) 市民討議会の小テーマは、討議を進める上で適切でしたか。



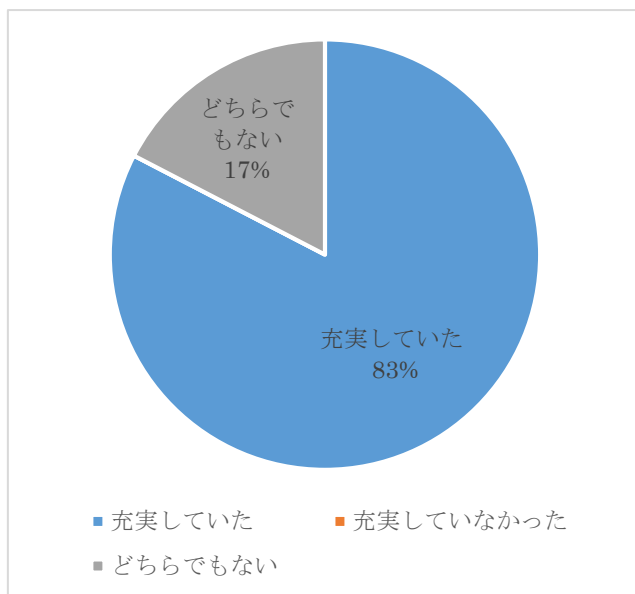
(質問 6) 討議グループについて、1グループの人数はいかがでしたか。



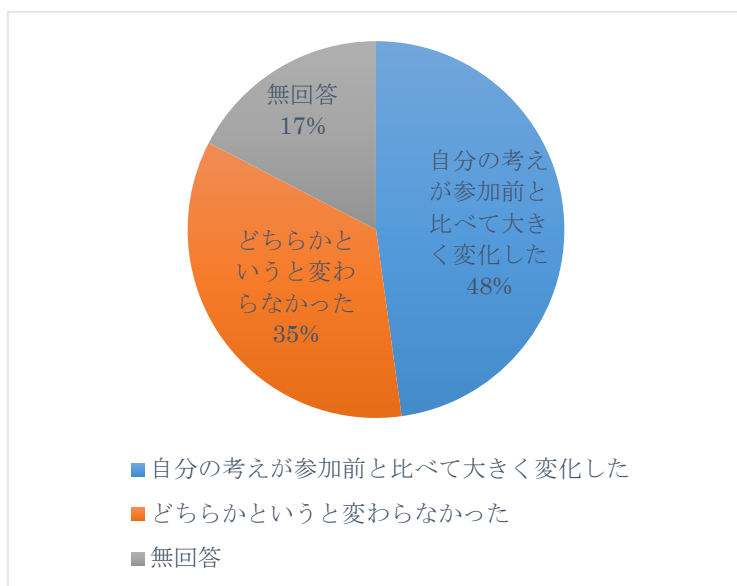
(質問 7) 討議では自分の意見をきちんと言えましたか。



(質問 8) 参加されての充実感をお尋ねいたします。



(質問 9) 討議していく中で、「まち」についての考えに変化はありましたか。



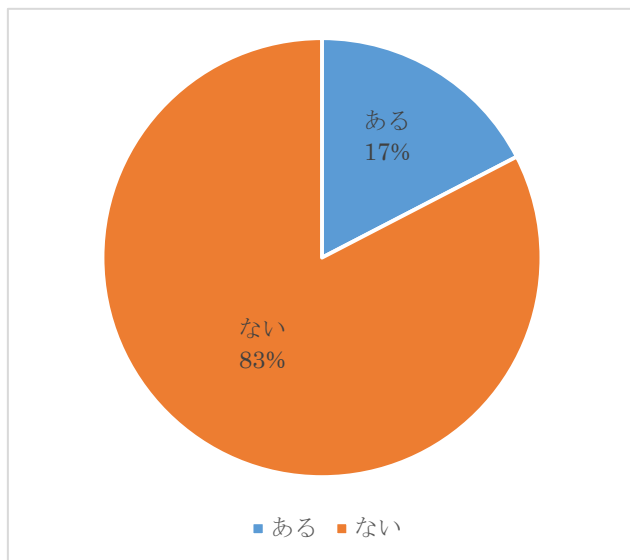
変化した方の理由：

こういった機会がなかなかないので他の市民の意見を知れて良かった。  
様々な立場からの意見があり興味深い。  
地域の事をしっかり考えている人がたくさんいることがわかった。  
知らない部分が知れて良かったです。  
様々な意見に触れることができた。  
「働く」ということは、「仕事をする」だけでなく、人と関わるという  
意味もあると感じた。  
前より魅力を感じた。

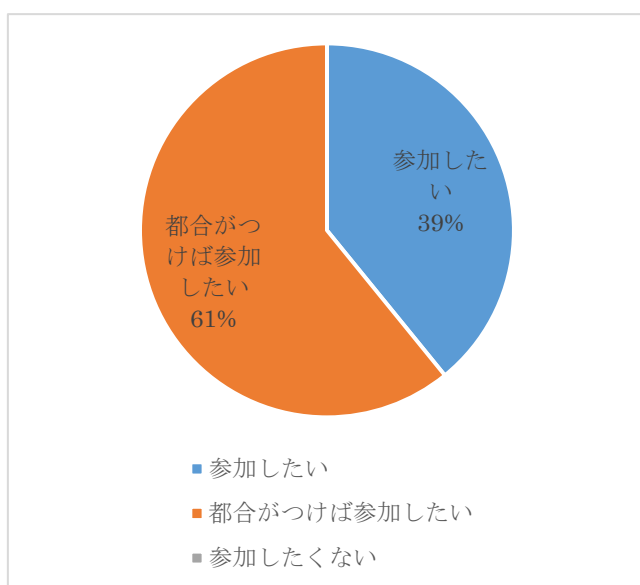
どちらかというとならなかった方の理由：

元々地元の人間ではなく定住するつもりもないので  
結果的には皆同じ思いをしていたと思う。  
よくわからなかった  
結果が出ていないので変化については変わっていない  
今まで感じていたことだったので特には

(質問 10) これまでに「住民懇談会」などの市が主催する集まりに参加したことはありますか。



(質問 11) 市民討議会にかぎらず、このような市民参加型の事業にまた参加したいですか。



(質問 12) 実際に市民討議会に参加されてみて、どうでしたか？なんでも結構ですので感想をお書きください。

- 自分にとって、色々な話が聞けて、有意義でした。
- この討議会の目的とゴールを設定してくれた方がスムーズ。ブれない話し合いが出来そう。
- 色々な人の意見が聞けて良かったです。
- とても興味深かった。
- 様々な人の考えにふれることが出来た、いろいろな考え方やしっかり自分の住む場所について考えている人が多いと感じた。
- 年代の違う初めてお話する市民のみなさんと意見交換する事ができ、とても良い経験となった。
- 様々な意見を知るきっかけになって良かったです。ありがとうございました。
- もう少しかたい内容だと思っていた、話しやすい環境で良かった。
- 市の活動が知れて良かったです。イベント事の予定、都合、色々
- 普段意識しない面を客観視する良い機会でした。
- いろいろな人の意見が聞けて良かった。
- 今回の話が実際にまちにどう対応されるのか。

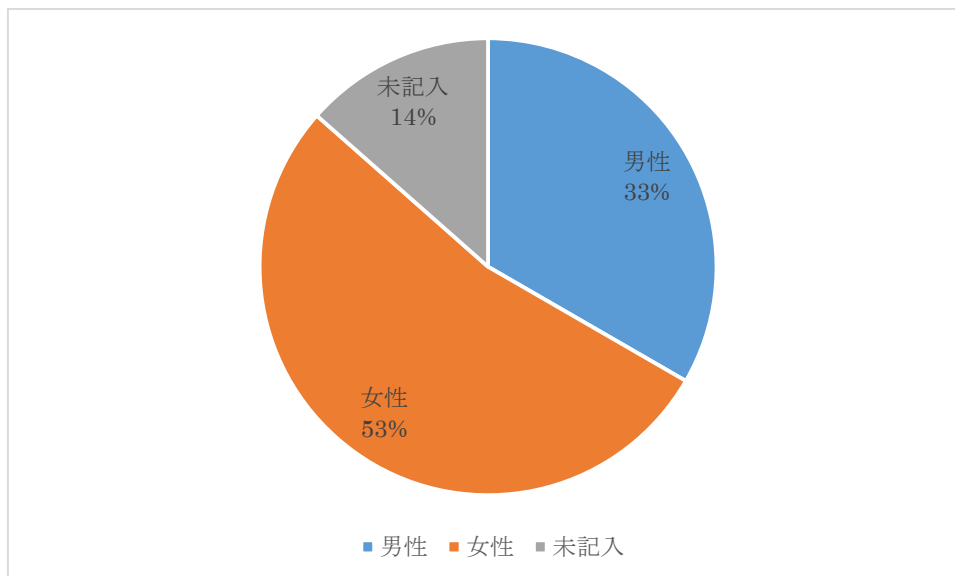


## 討議に参加いただけなかった方のアンケート結果

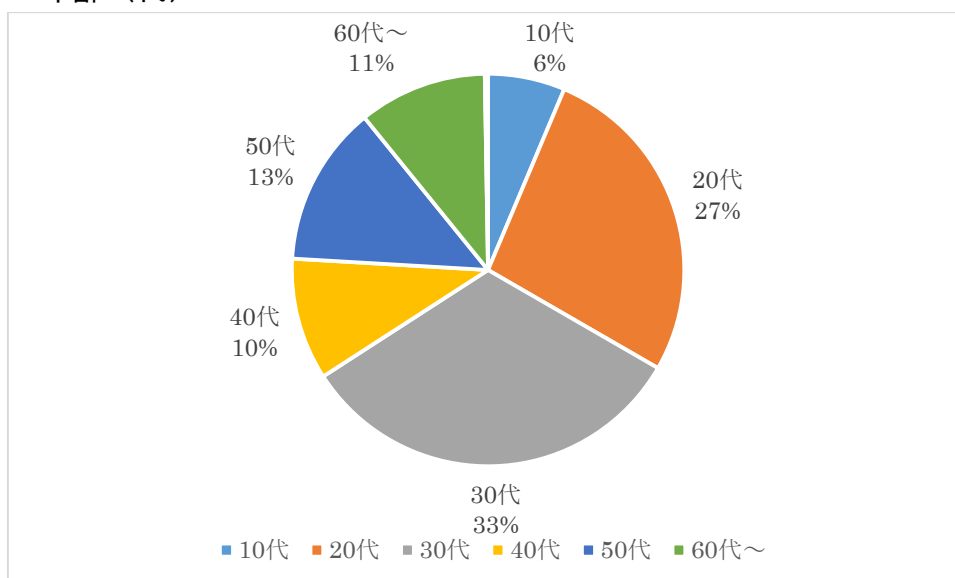
回答数：378

### 1. あなた自身について

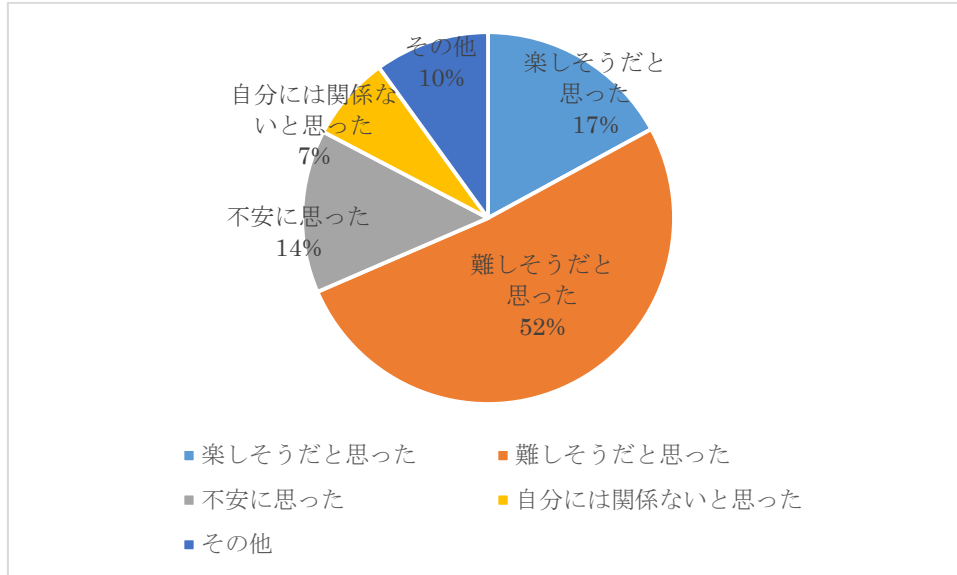
#### (ア) 性別



#### (イ) 年齢（代）



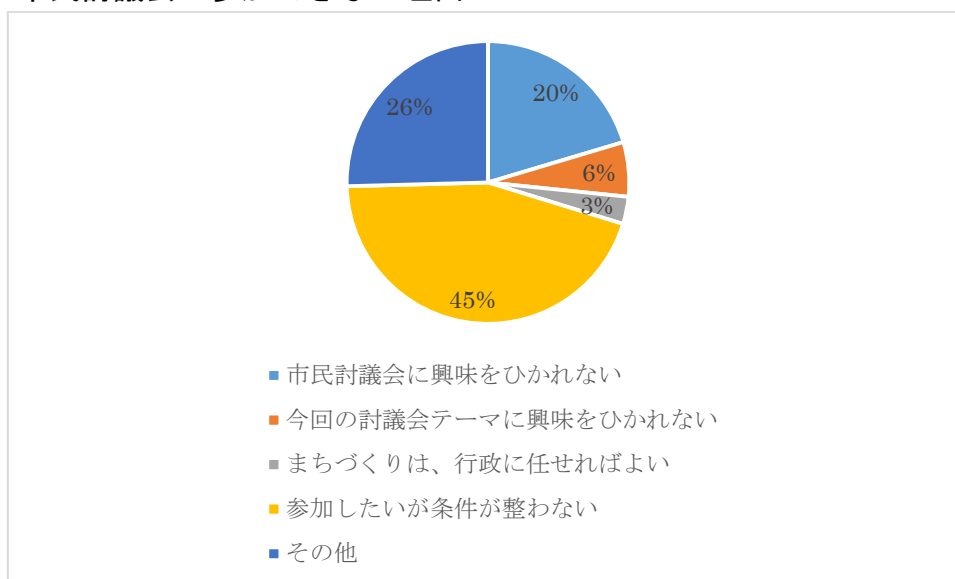
2. 五所川原市民討議会への参加依頼書を受け取ったとき、どのように感じたか。



その他の回答

- ・ 存在自体を初めて知った
- ・ こういう活動があって良いと思った
- ・ 興味はあるが難しそうだと感じた
- ・ 昨年も参加依頼があったなと感じた
- ・ そんなのやるんだな~と思った
- ・ 日曜日はゆっくりしたい
- ・ 忙しい時期なので残念だと思った
- ・ 面倒だと思った
- ・ このような取組みを知ることができてよかった
- ・ 初めてでびっくりした
- ・ 参加してみたいなと思った
- ・ なんで自分なのと思った
- ・ 市について考えるよい機会だと思った
- ・ 参加したいが引っ越すので出られなく残念
- ・ とても興味深い
- ・ 特に意味のあるものだとは思わない

### 3. 市民討議会に参加できない理由



#### その他の回答

- ・参加したいと思ったら返答期限が過ぎていた
- ・県外で仕事をしているため青森にはいない
- ・人とあまり関わりたくないため
- ・参加しても意見を言えなければ意味がない
- ・話をするのが苦手であまり話せる自信がない
- ・行っても無意味
- ・討議会でうまく話せる自信がない
- ・参加しても地域共生社会への現実是不可能だと思っているから
- ・次回このような機会があったら参加してみたい
- ・農家で討議会の日には田植え中の為に行けません
- ・転出しているのに連絡が来るのは少し違和感があった。多人数への連絡と思うが、住所調べる際にわかることではないか
- ・大学進学で五所川原に居住していない為
- ・2年生の子を留守番させたことがないので。託児に年齢制限がある為
- ・仕事の為
- ・有償なのはすごく良いと思った。平日働いていて子供もおり、一緒の時間をつくりたい
- ・学業に支障が出る恐れが
- ・午前中の開催が良かった
- ・市役所と関わりをもちたくない

- ・体調不良の為
- ・討議や発表が苦手な為
- ・コミュニケーションに自信がない
- ・職場が市外のため。テーマについての情報が乏しいため
- ・当日は用事がある
- ・引越しするため五所川原市民ではなくなるため
- ・他県の大学へ通っている為
- ・若者の意見は色々な利己的要素が多いと思われそうだから
- ・障がい者の為参加は難しい
- ・本人は言葉がしゃべられない。耳も目も不自由
- ・障がいがある為参加できない
- ・出産したばかりの為
- ・休みが不規則なので予定が立たない
- ・討議ができて意見を言えるのか不安に思うので
- ・人が集まる所、知らない人と話をするなどの事が苦手だから
- ・人前での討論は苦手だが企画はおもしろい
- ・日時の時間帯及び父親の介護等
- ・グループワークが苦手
- ・難聴のため多くの方と話をすることが難しい
- ・十分な教育も受けられないのに市政に意見を出すのは無理
- ・謝礼は頂けないため
- ・職業が農業で田植えの最中のため
- ・労力に対する報酬が見合わない
- ・忙しい時期なので
- ・公務員の為謝礼を受け取れません
- ・責任が重そう
- ・時間が長い
- ・車を持っていない。家からのバスタクシーもない

#### 4. 市民討議会へのご意見等

- ・ 討議会後のビジョンが見えない。
- ・ コミュニケーションよりも、もっと大事なことがある。
- ・ インターネットや SNS、町内会、回覧板、選挙の投票所などで意見や要望をアンケート形式でもいいので聞くことができたらいいのではと思います。
- ・ 市民討議会のテーマが具体的にどのような事を話し合うのか読み取れませんでした。地域共生社会の実現に向けては大変興味がありますが、市で考える共生社会のイメージが書かれていれば良かったと思います。
- ・ 市民討議会の開催はとても良い事だと思います。出し合った意見等は是非市政にどんどん反映させて欲しいと思います。
- ・ 謝礼をもっと上げれば参加希望者が増えると思います。
- ・ ぜひ定期的に行ってほしい。謝礼なしでも参加したい人はいると思います。短時間にするなど、条件が変われば子育て中の方や土日仕事の方も参加しやすくなるのでは
- ・ 春以外でしたら参加できますので、次回の討議会にはお声かけてください。
- ・ 13:30~17:30 は有償とは言え、拘束時間が長いと考えた結果、今回は不参加とさせていただきます。
- ・ もっと若者が住みやすい街になるよう願っておりますので、課題に取り上げて頂けたらと思っております。
- ・ 自分に都合がつかない場合、都合がつく家族とかの代打でもよいという方法にしてくれれば良いと思った。
- ・ 話し合いの結果がもっとわかりやすく市民に伝われば良いと思う。

- ・ 討議会の様子は広報で目にするが、取り上げられた問題を市がどう対応したか市政に活かされたのかまでは全くわからない。
- ・ 市民の声が届く場所(会議)があるんだなと初めて分かりました。
- ・ 今回の開催に関してですが、謝礼金が安いと思いました。
- ・ 4時間は少し長いと感じました。条件が合えばぜひ参加したいと思います。
- ・ 生活環境や性別、年代の違う人々が集い意見を出し合う場が有るのはとても良いと感じました。
- ・ 今回の討議会テーマって何ですか？もし「より良いまちにするために」であれば、テーマが大きすぎるような気がします。
- ・ 討議会の必要性がわからない
- ・ 行政に任せてばかりでは、さまざまな意見はある程度限られます。  
このような討議会は良い事と思いますので、この後も続けてください。  
特に若い力は大切！
- ・ 討議会のテーマが漠然としすぎてよくわからなかった。(私にとって)結局討議会に参加する方はコミュニケーションが足りている人では？そうでない人も参加(意見を聞く)する討議会があれば参加したい。
- ・ オンラインでの企画もあればよいと思った。
- ・ 市民討議会で市民の声を聞いて何か変わるのかわからない。  
何も変わらないと思う。
- ・ いきなりこのような通知を受け取っても複雑な心境でした。  
もっと募集の方法を変えて、皆に認知してもらった上で本当に参加したいと思う人々を募ることも必要ではと考えました。
- ・ 市民の声に耳を傾け、市政や町づくりに役立てることを目的に活動していることを知りました。

- ・ 今後の未来は若者世代(20~40 才)に受け継がれてみてはどうか。
- ・ 五所川原市の活性化の為に、市民の意見を聞くことは大事だと思うので継続して下さい。
- ・ 謝礼が辞退できたら参加したいと思いました定員が明記されていると助かります。一家庭何人まで可能などわかると、前向きに検討できると思います。
- ・ 進学で地元に住んでいないので参加できないのですが、開催日程が例えば大学の長期休み期間だと参加できると思います。(GW、夏休み、冬休み期間など)
- ・ 市民討議会の開催頻度を現在の年 1 回から半年に 1 回といった具合に増やしてみるのはどうだろうか。市民討議会報告書によると、参加者は例年 30~40 名程度であるが、参加意思を持つ応募者が多くいることが分かる。だが、希望した人全員の参加を実現するために討議会の規模を大きくしてしまうことはこの討議会の特徴であるマジョリティ意見の表出にそぐわない。従って討議会の開催頻度を増やすことで機会の提供に繋がり、より多くの市民の声を聞けるようになるのではないか。是非ご検討いただきたい。
- ・ 以前一度参加した時とても有意義でした。若い人と一緒に話し合いをして意見をまとめたりすることが楽しかったです。こういう期会をどんどん増やしていってもらえればいいと思います。
- ・ 地域共生社会に向けた五所川原市の取組みの中で、コミュニケーションもそうだが、沢山の課題があると日々感じています。討議会以外の方法でも市民の声を聞いて欲しい。
- ・ 人とのコミュニケーションが苦手で自分自身の意見をはっきり言えなそうです。一案として無作為抽出でアンケート用紙での調査で回答だとコミュニケーションが苦手な人でも意見を言えます。
- ・ 子供たちの未来に関するテーマなら、出席したかったです。
- ・ 討議したことで何がどう変わるのかどう変わったのか周知してほしい。

令和5年度五所川原市民討議会 報告書

編集 令和5年度五所川原市民討議会実行委員会